

# 令和5年度（2023年度）第1回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会

後志地域いじめ問題等対策連絡協議会事務局（後志教育局）

令和5年（2023年）7月13日（木）、後志合同庁舎において、管内における生徒指導上の諸課題への対策の推進を図ることを目的として、「令和5年度（2023年度）第1回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会」を開催しました。会議には警察や人権擁護委員協議会など18名が出席し、各機関での取組や連携の在り方などについて協議を行い、今年度の重点を決定しました。会議の主な内容は次のとおりです。



## 講演「子どもたちの抱える諸課題への対応について」

■ 日本大学文理学部の藤平敦教授から、「子どもたちが抱える諸課題について」というテーマで講演をいただきました。学校・家庭・地域の中で子どもたちが自分の考えや気持ち、困り感を周囲に発言することができる心理的安全性を確保した上で、いじめや不登校等などの課題に対しての未然防止の方策を、具体的な実践例を用いてお話いただきました。分かる授業やクラスメイトとの協働学習などを充実させることの大切さや、家庭や地域との連携の大切さについてお話いただき、普段行っていることがいじめや不登校等の予防に繋がることを確認することができました。子どもを主語にした働きかけを、どういう意図で行うかを整理し、効果的な働きかけを行うことで、子どもたちが安心できる地域づくりにつながることを共有しました。講演により参加者は改めて予防の重要性や各機関ができる働きかけの重要性を確認することができました。

## 各機関の発言等について（協議から）

### 1 いじめの未然防止に対する取組や連携例

- ・ 学校での時間の大半は授業。子どもが主語になり、どの子も活かされる授業づくりを行っている。
- ・ 縦割りで行う行事の重視。学年の役割を経験し、他学年を思いやる心情を養っている。
- ・ 生徒と教師の対話を重視するなど、丁寧な関わりを行っている。
- ・ 関係機関の講演、スクールカウンセラーなど外部機関との連携を大切にし、一人一人が自己を振り返ることができるようにしている。
- ・ 家庭では、朝の挨拶などを通して子ども達の変化を注視している。
- ・ 保護者と担任・部活動の顧問等との情報共有から子どもを見守っている。
- ・ 警察による非行防止教室の実施。少年補導員など地域の方と連携した祭典巡視を行っている。

### 2 不登校児童生徒に対する関係機関の関わり・連携について

- ・ スクールカウンセラーによる児童生徒、保護者のカウンセリングを実施している。
- ・ 医療機関、市役所の福祉課、デイサービスなど子どもの環境に応じた支援を行うなど、外部との連携を重視している。
- ・ 不登校を防ぐため、授業、生徒指導、道徳、学活の充実を図っている。
- ・ 学習の遅れを起因とする不登校が起きないように、早い段階から学年全体で未然防止について確認している。
- ・ 常駐の相談員が生徒の悩みを聞き、担任、保護者と連携し、対応している。
- ・ 社会福祉課兼子ども子育て支援室として、青少年の健全育成の啓蒙活動を実施している。
- ・ 教育委員会として、スクールソーシャルワーカーの活用など、学校に関わる人数を増やしていきたいと考えている。

## 今年度の重点

- 地域で行ういじめの未然防止
- 不登校児童生徒への学校や関係機関による多様な支援や連携の充実

○ 令和5年度（2023年度）第2回後志地域いじめ問題等対策連絡協議会では、今年度の重点に基づいた各学校、機関の実践事例報告、意見交流を行います。